

時を超えた二つの城下町

甲府市

かいのくにふちゅう

現在の甲府駅周辺につながる甲斐国府中(甲府)の町並みは、中世では武田氏館跡を中心に広がっていた。その後、甲府城が築かれ江戸時代になると、町の中心は南へと移り、現在の甲府市中心街へとつながっていく。甲府は、中世と近世の二つの時代の城下町を堪能できる特徴的な場所である。

武田城下町

永正十六(1519)年に武田信虎が躑躅ヶ崎(甲府市古府中)の地に館を移し、信玄・勝頼の時代まで居所であるとともに甲斐国の政治を行う府中とした。室町時代の將軍の居所(御所)を意識した守護館や城下町が整備され、躑躅ヶ崎館(武田氏館跡)から南へ通る大きな道は、現在でも武田通りとして親しまれている。この道沿いには武田氏家臣の屋敷が配された。鍛冶工房や神社仏閣も城下町に集められ、信玄が領主の時には京都五山などにならって甲府五山が定められた。現在は、家臣の屋敷を示す看板などが設置されており、神社仏閣とともに巡り、当時の姿に想いを馳せることができる。

甲府城下町

武田氏滅亡後、徳川氏家臣の平岩親吉が城代として甲府に入り、甲府城の築城が始まったとされている。その後、徳川氏は領地替えにより関東に移り、甲斐国は豊臣氏の勢力範囲となり、豊臣氏家臣の浅野長政らによって甲府城が完成された。内堀で囲まれた城を中心に、一の堀で囲まれた武家地、二の堀、三の堀で囲まれた町人地や神社仏閣が広がり、堀で区画された近世城郭の特徴を表している。横近習町や魚町通りなどの町や通りの名前、土地の区画などは今でも残っており、江戸時代の城下町の名残を感じることができる。



- 116 河尻塚
- 117 武田信玄火葬塚
- 118 円光院
- 119 躑躅ヶ崎亭跡
- 120 武田氏館跡
- 121 甲斐惣社八幡宮
- 122 古八幡神社
- 123 万寿森古墳
- 124 法泉寺
- 125 関屋
- 126 松元寺
- 127 湯村山城跡
- 128 法泉寺の烽火台跡
- 129 和田の城山跡
- 130 武田竜芳供養塔(聖道墓)
- 131 史跡武田氏館跡範囲
- 132 竜華池
- 133 甲府市武田氏館跡歴史館(信玄ミュージアム)
- 134 甲府市立北東中学校
- 135 山梨大学
- 136 山梨大学クラウンド
- 137 山梨県立甲府第一高等学校
- 138 甲府病院
- 139 山梨県立図書館
- 140 山梨英和中学校・高校
- 141 山梨県庁
- 142 甲府城跡愛宕山石切場
- 143 甲府市役所
- 144 甲府市立図書館



古八幡神社



甲斐惣社八幡宮



妙遠寺



梅屋敷天満宮



御崎神社



教安寺

- 131 御崎神社
- 132 梅屋敷天満宮
- 133 甲府城跡
- 134 愛宕神社
- 135 長禅寺
- 136 来迎寺
- 137 大泉寺
- 138 妙遠寺
- 139 尊昧寺
- 140 教安寺